

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)たすかる GH たすかる
(ユニット名)	GHたすかる A棟・B棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県南島原市深江町戊2975-6
記入者名 (管理者)	中山 美恵子 (小谷 和裕)
記入日	平成 21 年 01 月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>『老いても障害があっても、地域の中で生き生きと安心して生活できるサービスを目指す』を基本理念にかかげ、リビングに掲示してる。</p>	<p>一番目に付きやすい所に設置したと考えていたが、リビングの照明がやや暗く考えていたより目立っていない。目立つような書体に変えたり、A棟においては玄関のカウンターの上にウェルカムボードを作りそこにも掲示するなど工夫していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>最近では、始業の始めに全部を復唱する事が少なくなったが、その中にある『生き生きと』というところにフォーカスして、どうすれば利用者様が『生き生きと』されるかを定例会や勉強会等で話あっている。</p>	<p>理念のテーマが大きすぎて漠然としている感がある。日々実践する上で、スタッフの心意気や心構えをより象徴する言葉をもう一つサブの理念にできないか、施設長・管理者・職員で今後協議していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p>		<p>入所の際には特に事業者の理念・モットーについて、理解をして頂けるよう時間をかけて話をしている。また運営推進会議の中でも、利用者家族・市町村職員・地域の代表者に事有るごとに話をして理解を得られるよう取り組んでいる。</p>	<p>今後も、会議や行事・面会の際など心がけて話をしていきたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>駐車場からホームまでの道すがらなど、近隣の方々からよく声をかけてもらったり、散歩の途中で立ち寄って遊んでいかれたり、敷地内のお釈迦様を参拝に来られたりしている。最近では、敷地内で生まれた子犬をよく見にこられる。また、要らなくなった新聞紙を『使って下さい』と気がけて持ってきて下さるようになり感謝している。</p>	<p>今後も、自由に気軽に立ち寄れるホームを念頭に関わりたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>自治会の清掃活動や煙霧消毒と一緒に参加させてもらったり、毎年敬老会には自治会長をはじめ高齢者を招待し、ホームの方々同様にお祝いをさせて頂いている。また不定期ではあるが、自治会の公民館で講習がある時は声をかけて頂き参加している。(ホウ酸団子作成や健康料理など)</p>	<p>毎月の清掃活動で、どうしても参加できない事もあった。事前に声をかけるよう心がけ、地域の一員として参加できるよう積極的に取りくみたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	会話の中で日頃から困っている人がいないか、事業所で力を貸せる事はないかなど話をしている。自治会の回覧やちらしなどのコピーなどは、微々たる協力をさせてもらっている。		支えあいの精神で、今後GHが近隣・地域に対して出来ることを考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義の理解は十分あり日々努力する姿勢はあるが、担当者の力を伸ばせる取り組みができなかったり、管理者の指導不足もあり毎年同じ部分が取り組めていない現状がある。		出来ていない所を重点的に、改善できるようにしたい。組織力の充実、個々のスキルアップに繋がる取り組みを実践していく事を目標にしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回開催し、話し合いで意見をとり入れている。		事業所からの報告が主で、苦情や要望の意見が数少ない。もっと意見が出やすいような会議にし、事業所のサービスがより向上出来るようにしたい。又資料の内容や表現方法など今後工夫していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	民生員や地域包括支援センターを定期的に訪問し、交流と情報交換を行っている。		現状維持に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	数名は研修等で学習しているが、全員は受けていない。		難しい内容の為、全員が交代で研修に行き学ぶ機会を作りたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律に関しては一部認識不足はあるが、虐待の防止は全員が努めている。身体拘束と関連させ何度か勉強会を行っている。新聞記事やニュースで取り上げられたものは、回覧する形で情報を共有し、虐待を絶対行わないという意識を高めている。		今後も定期的に勉強会で取り上げていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設長・管理者の二人体制で十分な説明を行い、理解して頂いた上で契約に至っている。解約についても同様に配慮を行い、十分な説明・話し合いの上、理解・納得を図っている。</p>	<p>今後も様々なケースに対応し、身元引受人が配偶者(高齢者)であったり、知的障害を持たれたりされていた場合など第三者の協力を得るなどの配慮をし、十分な説明により理解と納得を図っていききたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様への傾聴に心がけると共に、面会時には静かな場所にお茶を運び、言いにくい事も言って頂きやすいように配慮している。</p>	<p>今後も個別にゆったりと話をする機会を設け、思いを打ち明けやすいように配慮していききたい。ご意見には感謝の気持ちで対応したい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や請求書配布時に暮らしぶりや健康状態の説明を看護師が行い、緊急時は電話にて対応している。遠方の方には手紙にて日常生活の様子をお伝えしている。常勤職員の異動があった時は、その都度面会時に報告している。</p>	<p>請求書の中にも、スナップ写真とお便り個別にを同封している。日用品以外の物の購入についても、事前に相談したりお伺いをたてるようにしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様が面会に来られた際ご意見・ご要望などをお伺いし、苦情解決できるよう努めている。ご意見箱の設置・苦情窓口の紹介など紹介などを公表し、匿名による意見を表明しやすいようにしている。</p>	<p>これまでに意見箱の投函はないが、投函があれば担当者が早期に対応し、しかるべき改善策を運営に生かしていききたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の会議を設け意見交換を重視し、今後の運営に生かしている。</p>	<p>定期的には現状維持し、意見や提案をどのように反映するか、今後の展望など協議していききたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜勤者の労務軽減とリスク回避の為、昨年からは遅出・早出の導入を開始している。試用期間やアンケートをとるなどして、移行が問題なくスムーズにいくように努めている。</p>	<p>その時々で状況でクイックな体制が取れるように、常に図っていききたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来る限り異動をなくし、やむをえず離職に至った場合は利用者様にご迷惑をかけないよう配慮している。</p>	<p>常勤・非常勤とわず長期に勤務して頂き、馴染みの関係を保っていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を実施したり、外部の研修に参加した者は内容を報告・紹介したり、関連法人合同の初級・中級セミナーに前期・後期の2回に別けて参加している。	職員の知識の向上を図るため、多くの研修に参加するように外部の研修案内を広く掲示・呼びかけている。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加する事で情報交換したり、他GHを見学させて頂いたり、近隣のGH各行事に招待しあったりしている。もちろん関連法人間では交流を密に行い切磋琢磨している。	関連法人が多くある為、ネットワークを強化し連携をもちながら、地域貢献に努めている。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別に話を聴く機会を作るようにしたり、節目には親睦会や食事会を実施している。	まだまだ頻度が少ないようである為、職員の状況を見ながらできる限りタイミングよく実施したい。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	仕事に対するの責任を持たせるため係・担当を設け、職務の遂行に対するの評価・助言に努めている。	今後は、外部研修への自主参加の意欲・参加状況も評価に努めたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入院中であれば了解を得て病室を事前に訪問し、よくご本人からの希望等を聴き、馴染みの関係が作れるよう努めている。在宅であれば自宅に訪問する機会を持ったり、見学に来て頂き話し合いの機会を多く持つように努めている。	ご本人が出来る限り不安の軽減が出来るように、初期の対応はしっかり行っていきたい。
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人と同様に事前の情報収集に努め、同席での話・個別での話などでGHに求められている意向を早期に把握できるように努めている。	ご家族が出来る限り、GH利用に対するの不安が軽減できるように初期の対応は特に丁寧に対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をまずしっかり受け止め、最適なサービスを利用できるように努めている。		他のサービスについても、必要な情報を提供できるように努め、連携しながら支援していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は何回でも気軽に来て頂いてもいい事をお伝えし、体験入所も受付けている。		事前に職員が挨拶に伺ったり、施設見学にゆっくりとお話を聴きながら、早期になじみの関係を築けるように配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれが得意とする分野を發揮し活躍する場面を設けたり、それぞれの存在を共に感謝しながら、日々の出来事を一緒に楽しんだり、笑ったり、泣いたりという関係を築けるよう努めている。		これまでの半生からの教訓や昔の知恵など、もっと教えるようなコミュニケーションを取っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	時間が許す限り日頃の状態・起こった出来事・相互の関わりなどを、本人様とご家族・職員が話ながら思いを共有し、役割を替え同じように支えていけるよう取り組んでいる。		遠方のご家族には、電話・手紙等にて精神的な支えをお願いしている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係理解に努め、各緒事情にも配慮しながらより良い関係が築いていけるよう支援している。		ご家族が多忙であっても、遠方であつても疎遠にならないよう職員がパイプの役割を担えるように努めていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、兄弟・知人・実家等の訪問やお墓参り等を付き添ったり、馴染みの店での買い物や理美容室利用にも努めている。		ご家族様からの依頼があれば、冠婚葬祭の席までも送迎をしている。今後も柔軟な対応にて関係・役割が保てるように図っていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の性格・心身の状態をよく把握して、利用者様同士の関係がより良く支えられるように努めている。		利用者様同士の相性も重要な要素であり、共同スペースでのトラブルが起こらないよう配慮している。認知症の程度・難聴・視覚障害などを持ち合いながらも、相手を卑下することなく交流が出来るよう見守り・声かけに努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先や、他施設への入所先へ訪問・面会したり、折にふれご家族様から近況をお伺いしている。		ご縁を大切に考え、未長いお付き合いを続けていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を参考にし、本人様の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は心身の状態を勘案し本人本位に検討している。		生活歴の聴取が十分でないところは、情報を得ていきたい。話したくないと思う方へは無理にしつこく聴かず、会話の中から自然に情報を収集する工夫をしたり、関係の人たちからの情報などを参考に把握に努めたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様から情報を聴取し、これまでサービス利用をされていれば医療機関・相談員等から、出来る限り正確な情報を収集し、その把握に努めている。		多方面から情報を収集し、理解に努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身の状態や健康面では毎日バイタルチェックを行い、看護師の助言や介護職員の気づきなど情報を共有している。日によって違って来る出来ること、出来ないことも含め生活者としての全身像を把握するように努めている。		一人ひとりの一日の過ごし方についての記録が不十分で、記録からその姿が見えてこない。経過記録の工夫と努力が必要。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・関係者とはあらかじめ希望や意向をお聴きしておき、原案を作りその後に、修正・追加を行いながら、意見やアイデアを反映したものになるように努めている。		一同に会して話を持つことが難しいが、個別にでも意見を聴き集約した介護プランを作成しているが、チームで作る為には場を作る努力をしていかなければならない。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化が生じたが応じた場合は、状況により話し合いを持ったり、緊急時は電話で相談したり、現状にあう新しいプランに移行すよう努めている。		クイックに関係者を召集して速やかな計画・見直しを行えるように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録は記入しているが、個別性を重視した記録としてはまだ不十分である。情報を共有しながら実践し計画の見直しに生かせるような記録内容になっていない。		観察力を磨き、実践と気づきをきちんと記録できるような指導と、各職員の記録力の向上により、個別性のある効果的な記録を目指したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域で多機能な事業を展開しているので、要望や状況に応じた柔軟な対応・支援を行っている。また専門性を生かして相談にも応じている。		現状維持に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防の協力により避難訓練・消火訓練・人工蘇生等の指導を受け、暮らしの安全に向けて支援している。		消防以外の地域資源との協働がまだ少ない。他にどのような支援があるのかを知り、活かしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて、他のケアマネやサービス事業者と話し合い他のサービス利用の支援をしているが、頻度的にはまだ少ない。		必要に応じて行っていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	症例がまだなく、今のところ実施していない。		必要に応じて検討したい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医との関係を築きながら、必要に応じ常に主治医へ連絡相談を行い、指示・助言をもらったり、スムーズで適切な受診行動にむすびつけている。		今後もそれぞれのかかりつけ医と連携を深めていきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	島原保養院との関係を築いており受診したり電話にて相談、報告等支援している。		今後も、継続していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を職員として配置し協力医療機関と連携し支援している。		近隣のドクターが事業所に親身に力になって頂いている為、気軽に質問でき、相談にも応じてもらっている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は面会に定期的にいき、医師や看護師に状況を尋ねたり情報交換に努め、早期退院に向けて支援している。		入院による環境の変化や、点滴・処置等のストレスなどが考えられる為、規制がない限り頻回に来訪し、精神面でも配慮している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ症例がないが、本人・家族と事業所の話し合いは折を見て行っている。		かかりつけ医を含めた話し合いを早期から行い、全員で方針を共有できるように取り組みたい。ただし、かかりつけ医が距離的に遠かったり、往診ができないと断れたりするケースも多く、今後ホームで終末期を支えて行くためには、希望する対応が出来るドクターに協力が得られることと、転院をも視野に入れ進んでいかなくてはならない。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師の職員もいるが、医療機関ではないので、出来ることは限られている。家族様に十分な説明の上で、ご理解・納得をして頂くように心がけている。		終末期をチームで支えていくためには、介護職員の知識の向上の為の勉強会や不安の除去による心理的な労務軽減に向けての配慮が必要不可欠であり、今後の課題でもある。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	適切な情報が引き継ぎ出来るように、口頭の説明だけでなく、文章でも情報の提供を行っており、スムーズな移行を支援している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員全員が利用者様のプライバシーには十分配慮し、一人ひとりの個性を尊重し、その方に合った言葉かけや対応を行っている。	新人職員にはよくそのところを説明し教育している。十分な配慮を心がけているが、とっさの声かけがあまり的確でなかった場合、職員同士で注意しあい事後の対策をとっている。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	解りやすい声かけ同じ目線で、話を聴くようにしている。難聴の方へは筆談したりして、本人の思いが表現できるように支援している。また本人の意思で自己決定できるな支援を心がけている。	言葉が出せない方へも十分声かけし、本人の思いや希望について本人本位で支援している。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	大まかな1日の流れに沿っていれば、出来る限り本人のペースで希望に添えるような支援を心がけている。	職員の体制などにより、共同生活ペースに自然となりやすい為、注意していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	その人らしさが表現できるよう理容・美容室は本人の希望のお店にお連れしている。職員に美容師の資格を持つ者もあり、希望であればホーム内でも散髪やカラーリングも実施している。	外出時や行事の時など、希望で化粧の手伝いなども心がけている。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	野菜の下処理や配膳・下膳など出来る事はして頂いている。食事に関しては、食堂のスペースが狭いことや、食事の全介助者が居られる為全員で食事をすることが難しい。	身体的に調理や片付けは無理になっておられるが、可能な限り簡単な食事の準備には参加してもらい、味付けなど助言をして頂けるようにしていきたい。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	嗜好品は出来るだけ取り入れている。おやつの飲み物を一人ひとりリクエストを伺ったり、好きな漬物などを提供したりしている。ご家族や本人様の希望で、健康食品や黒酢なども管理・提供している。食べた事を忘れられる方への差し入れは、事務所預かりして適宜お出ししている。	嗜好品の1回量だけは多少管理をさせて頂き、塩分・糖分の取りすぎを防止している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し個別の排泄パターンをパターンを把握し、時間でトイレの誘導を行い、オムツへの失敗を減らすように努めている。		排便調整の方へは朝食後に便座に座って頂いたり、座薬を使う方には入浴前に排泄が済むようにしたり、出来るだけ気持ちよく排泄できるように支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めているが本人の希望があればいつでも入れるようにしている。入浴の順番もトラブルの原因にならないように、順番性を取り入れ公平・平等を心がけている。		便汚染時などは、夜間でも入浴して頂いている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の状況に合わせて、夜間寝付きが悪い時にはリビングで眠気が差すまでくつろいでもらったり、テレビ・ラジオ・読書されていれば温かい飲み物を提供したりしている。好みの寝衣への更衣をお手伝いしたりしている。		昼も夜も臥床傾向であれば、さりげなく昼間は起きてもらうように勧めたり、反対に休もうとされずに下肢がむくんだり、血行が悪くなったりされる場合は適時にベットでの休養を促している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な事や生活歴を生かして出来る事は実践して頂き、自分は役に立っているという意識を持って生活に張りがでるようにしている。		気晴らしの支援については、まだ十分に対応出来ていないと思われる為、今後努力していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来られる方は、病院の帰りやドライブ・散歩途中に買い物を楽しまれたり出来るよう支援している。		自由に見て買い物する楽しみを、職員も共感している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ希望に合った外出支援を日々心がけているが、まだ十分に対応とは言えない。		今後はもっと力をいれ取り組んでいきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他県から入所されている方の里帰りの支援を毎年行っている。また温泉旅行など希望に応じ同行、介添えを行っている。		毎年元気に里帰りを実施出来たことは、職員の喜びになっている。今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されるときは電話の取次ぎをしたり、手紙を書きたいと言われた時は宛名だけ代筆・投函したり出来ないところを支援している。		小包みが届いた時は、必ずお礼の電話をいれるお手伝いをしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるように、和やかな空間を心がけている。面会の比率も多くみられ、遠方のご家族様も毎年面会にきて頂いている。		今後も務めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わないケアに取り組んでいる。これまでに2例のみ危険防止の為やもうえず行ったが、ご家族の同意の元、必要最小限に努め、現行では一切行っていない。		勉強会でも取り上げ、職員の認識を深めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員で鍵をかけないケアに取り組んでいるが、夜間のみ居室窓と玄関には鍵をかけている。		現状維持に努めたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して常に利用者の所在を確認し安全に配慮している。		体調不良時や情緒不安定・環境の変化等がある場合は特に注意をし、こまめに見舞うなどさりげなく観察が行えるように指導している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤などの危険物は利用者様の手の届かない所へ保管している。		利用者様の能力に応じて、はさみや裁縫セットなど持たれている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に勉強会や火災訓練などを実施し、知識の向上に取り組んでいる。		自己報告書・ひやりハット報告書は定期的に回覧し、事故の分析・再発防止に個別に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防の方に来て頂き救急蘇生法の指導をうけている。また関連法人の救急蘇生法の講義にも参加させて頂いている。急変時対応マニュアルを作成し、勉強会を行っている。		内容を忘れないように、定期的に行っていききたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、地域の方へも協力が得られるように事前に働きかけている。		自然災害の際の水・食糧の備蓄できておらず、今後の課題である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所の際や現状での事故が起こりうると想定された場合には、その都度ご家族に説明している。職員の間でも事故が起こらないよう対策を話し合っている。		リスク回避を考えすぎて、ご本人の生活を制約させていないかを常に念頭にいれ、そのバランスをとれるよう配慮していききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を早期発見できるよう、業務日誌や個人記録・申し送り時に情報を共有し迅速な対応が出来るよう努めている。		毎朝バイタルチェックを行い、異常値であれば再検を経時的に行ったり、看護師へ報告し指示を仰いだり、早めの受診行動に結びつけている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が大まかな薬の内容は理解しているが、副作用までは十分に理解しているとは言えない。便秘の下剤調整はその都度調整を行っている。内服が変更になった際は、内容・用量・注意事項など申し送り簿に記入し口頭でも数日行き渡るまで申し送っている。		内服一覧表も変更時に早急に整備するようしていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ繊維の多い食品を取り入れたり、水分補給や体操など心がけている。		冬場は運動があまり出来ていないので、もう少し手軽に出来る運動をもっと積極的に行っていききたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけや介助により、口腔ケアに努めている。		実施できている。ケアを継続していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じて1日のカロリーや水分が確保できるように、個別に対応している。(個人記録に記録している。)		誤嚥の心配のある方には、スポーツ飲料をゼリーにしたり、胃薬から確保したり、食欲がなく食べれない時は濃厚流動食を捕食したり工夫している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、定期的または流行時期に応じて勉強会を行い、職員の意識を高めている。		インフルエンザは毎年、利用者様・職員も全員に予防接種に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調整器具・食器などは乾燥機による熱処理を行い、まな板・布巾は毎日ハイター消毒を行っている。また食材は週3回お店からの配達による新鮮な食材を配達して頂き、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		生産地等のチェックや、出来るだけ手作りで加工食品を控えたり、食の安全について配慮していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気候や天候にもよるが、出来るだけ玄関は解放し、気軽に出入りしやすい環境を心がけている。		中庭の砂利が上がりスロープの部分で危なくないように、安全対策を講じている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの掲示物や季節の花を飾ったりしている。		A棟は趣はあるが全体的に薄暗い感じがあり、照明変えたりして工夫をしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には畳のスペースもあり、横になりたい時は自由に横になれる。誰でも自由に過ごして頂けるような空間作りをおこなっている。		他GHを見学に行ったり、家具の配置や、安らぎを工夫した空間作りをもっと検討したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様がこれまで利用し馴染みのある物を使用して頂き、自宅同様に居心地よく過ごして頂けるようにしている。		今後も同様にしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調整をこまめに行ったり、適時換気を心がけている。ホーム全体に生活臭や排泄臭がないように、配慮している。		外気温とのバランスや、冬場はとくに湿度にも気を配っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室はすのこを使用しバリアフリーにしている。A棟は居室ドアの幅が車いすではやや狭い。B棟はバリアフリーとドアが引き戸にしてあり、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		A棟は老朽化も考慮して、建物の安全性・機能性など検討していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食堂のテーブルの席の取り決め、一人ひとりにデザインの違う食器などにより、自分の席。自分の箸やお茶碗など区別できるようにしている。		今後も継続していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日当たりのよい庭先にベンチを置き、天気の良い日には日光浴や花見などをしながらゆっくりと寛ぐスペースを設けている。		環境係が主に、鉢植えの管理等や周囲の整備をおこなっている。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

名前の通り「たすかる」と言って頂ける事を日々の喜びとして取り組んでいます。お陰様で地域の方々にもすっかり溶け込みご支援頂き感謝しております。GHたすかるも5周年を迎え、初心に立ち返って事業を見つめ直しておるところです。一昨年のように大文化祭は実行できませんでしたが、地域の方々にGHとして何が出来るかを日々考えております。もっともっと気軽に立ち寄って頂き地域の交流拠点になっていければ幸いに思います。